

市民提案型採択団体の今

NPO いんば

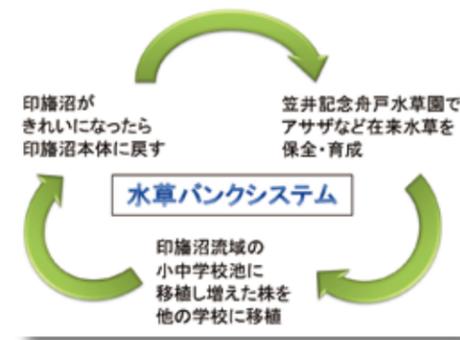
市の支援を受けて、小学生を中心に家族ぐるみで話題を共有できる、環境体験学習を行いました。

子供達に印旛沼の自然の良さを体験してもらう事を目的に、市内全小学校に募集をかけ、沼にせり出した栈橋の上で当会が育成している在来水草を観察し、屋形船乗船とを組み合わせた“夏休み印旛沼体験学習”を開催しました。そして参加者を感じたことを俳句に歌ってもらい、その中から優秀賞を選び後日イベントで表彰式を行うなど、一回の参加で終わることなく沼を身近に感じてもらう活動です。



当会は平成12年4月に設立し、数々の活動をして17年になります。

印旛沼の水質改善のための啓発と、未来を担う子供達に自然豊かな水辺・印旛沼環境を引き継ぎたいという気持ちで活動を行ってきました。



現在は流域小学校15校の池に、印旛沼に生育していたアサザを移植し、増えたら印旛沼本体に戻すという「水草バンクシステム」を構築し、平成28年にはふるさと広場近くの沼の中（水草園）にアサザがお里帰りを果たしました。今は実験段階ですが近いうちに学校、児童やその家族と一緒に移植し、憩える水辺になってほしいと願い活動を続けています。

事務局長 園原悦子

まちづくり

平成29年度 「自治会・町内会・区」のご紹介

第36回ボランティアのつとめ笑顔で会いましょう!

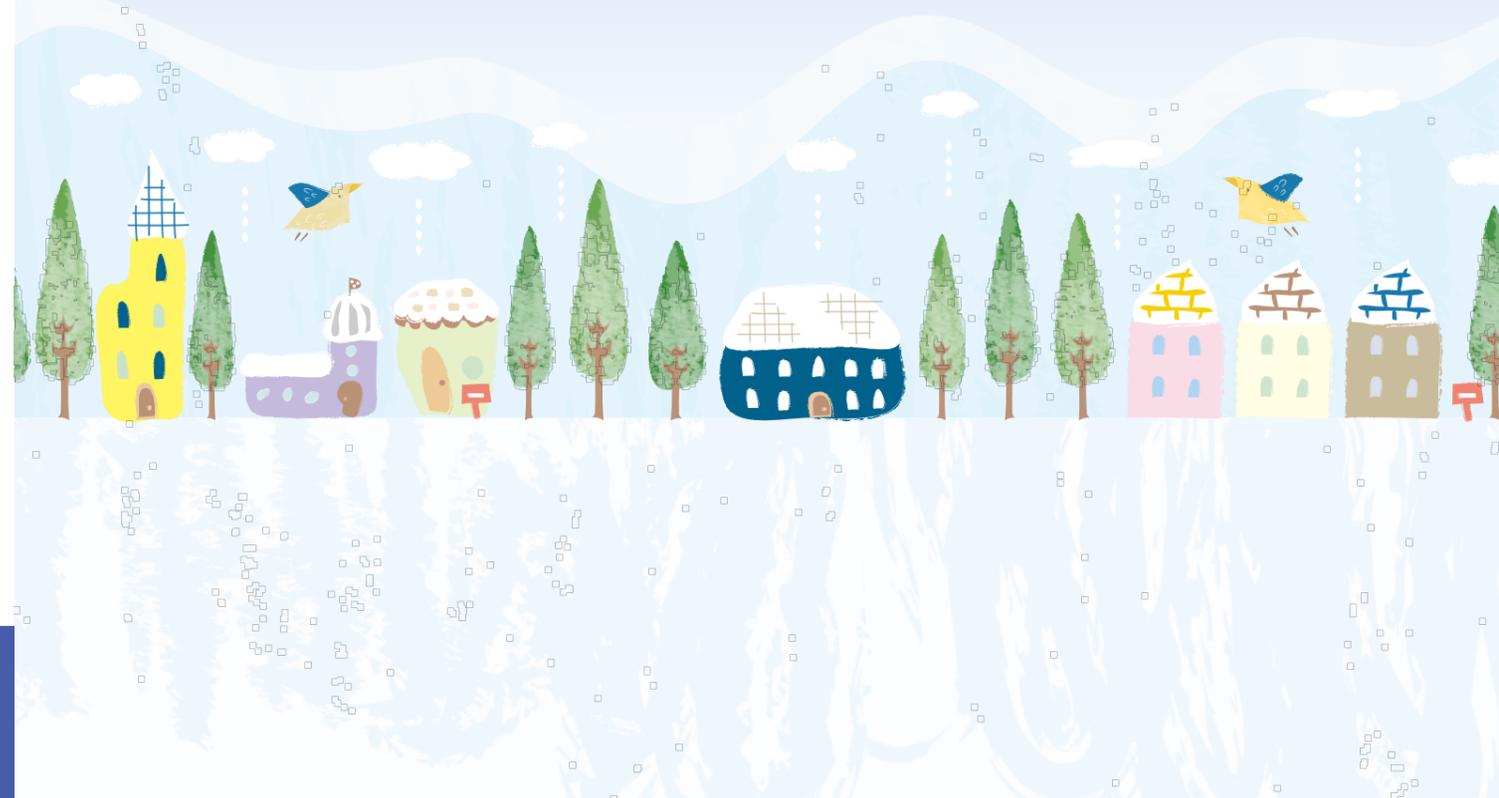
平成30年2月11日(日/祝日)
午前10時～午後3時(受付:午前9時30分～)
志津コミュニティセンター

参加費
無料

「人生の第二ステージを輝かせよう」をテーマとした講演会、各種体験など

主催団体 佐倉市ボランティア連絡協議会

お問合せ 佐倉市ボランティアセンター内 ☎043-484-6198



自治会・町内会・区をご紹介します

八幡台自治会

八幡台地区は開発から約40年が経過しました。開発当初から自治会組織が作られており、現在807世帯が暮らしています。その半数が65歳以上という高齢化社会の課題に直面していますが、住民の皆さんのネットワークは充実し、とてもアクティブに活動しています。

自治会発足以来続く「自分達の街は自分達で綺麗にする」を基本精神に共同清掃（年3回）やボランティア清掃（共同清掃の中間月）が街区にある5つの公園を中心に行われています。さらに大正琴・踊り・囲碁・ヨガ・ゴルフ・創作木目込人形等々、文化・スポーツ・芸術とバリエーション豊かな27のクラブ・サークルがあります。例年11月3日の前後4日間で自治会館を中心に行っている「文化祭・交流会」では、クラブ・サークルの発表の場として演芸発表会・作品展覧会を行い、その他ハザーや囲碁大会や豚汁などのふるまいで賑わい住民相互の交流を図っています。

イベントは他にクラブ・サークル、住民ボランティアの協力のもと「夏祭り（親子三代祭り）・納涼踊り」と「餅つき大会」を行っています。夏祭りも模擬店、納涼踊り、山車、神輿で毎年大盛況です。餅つきも釜でふかしたもち米を杵と臼で搗き大好評です。

こうした中で、昨年1月自治会館を建替え、意気込み新たに高齢化社会に向けた事業に取り組んでいます。これまでは個人が行っていた買い物ボランティアを自治会事業「かいものらくだ便」として今年度2月に開始します。この活動は社会福祉法人「さくらの丘」「ひまわりの里」と会員ボランティアの善意による支援活動です。特別養護老人ホームの車両提供のおかげで車いすでの乗り降りが可能になり、さらに充実した支援活動になります。また今年度は認知症への理解を深めるために行方不明や道に迷っている方に早く気づき優しく声をかけられるよう認知症高齢者声かけ訓練を行い、住民64名が参加しました。

八幡台は駅からは遠く少し不便ですが、田園風景に囲まれ、歴史ある

臼井の鎮守八幡神社があり、住みやすく子育てにもとてもいい環境です。課題はたくさんありますが、自治会役員を中心に活動やイベントを通したコミュニケーションを大事に、行政や企業・団体との連携を図り、さらに様々な事業を進めていきます。



公園清掃



餅つき



明るい会館のエントランス



ステージもある会館内の大ホール

宮本区

宮本区は佐倉インター付近の国道51号から南へ入った、緑多く昔ながらの村を感じる地域です。宮本区は現在37戸、住民全員が顔が見える関係です。農業地域ですが、専業農家は2件で兼業農家がほとんどです。

昔から「郷仕事」として村の中の共有地の草刈りや道路のゴミ拾い等の環境整備を全戸総出で行っています。宮本区には宮本・天辺・寒風・直弥の氏神である山王神社があり、その清掃も月ごとに担当班（1班～3班に分かれている）を決め行っています。小さな社日が特徴の神社で、樹齢150年は超える杉の木が幾本もそびえたち、境内やその周辺の様子はとても穏やかで昔と変わりません。住民の皆さんによりとてもきれいに保たれています。

また、7月には「御手洗池」の清掃を行います。この「御手洗池」はお神輿を清める「御手洗払い」を行うための池で、現在担ぎ手不足により、お神輿を担ぐのは3年に一度ですが、池の清掃とその周辺の環境整備は毎年10月に行われる山王神社の祭礼に向けて欠かせません。さらに夏には秋の豊作を祝う「夏奉社」、冬には豊作に感



御手洗池



きれいに整備された御手洗池の周辺

謝する「冬奉社」、祭礼のための幟建てなど昔からの文化風習をみんなで守っています。

また、子供会行事の「そうめん流し」を行ったり、高齢者の会「宮本元気クラブ」では庭散策、クリスマス会、音楽会などで交流を深め情報交換をしています。

新しく入ってくる住民は今のところいませんが、こうした郷仕事や環境整備、交流事業で世代が変わっても活動や風習は引き継がれ、郷土を愛する心も引き継がれています。

現代社会はよく関係が希薄な社会とされていますが、宮本区では一人一人が輪を大切に、一年を通した活動にみんなが参加して、村のきずなを築き続けています。そんな宮本区だからこそ、希薄さなどは感じることなく、困ったときには助け合う心ときずながあります。



清掃が行く届いた山王神社